

平成28年度北海道保健師関係団体連絡会研修会報告

<北海道保健師関係団体連絡会とは>

北海道ブロックでは北海道看護協会保健師職能委員会、保健師教育機関協議会との関係を密にし、北海道における保健師活動の発展を目指して3団体が協力して活動しており、年2回の連絡会議を行い、会員の親睦と資質向上のため研修会等を実施しています。

テーマ『保健師の基礎教育と現任教育の現状と課題』

開催日時：平成28年12月17日（土）13：30～15：30

開催場所：札幌市保健所 WEST19 5階講堂

参加人数： 60名

プログラム：

<実践報告 5題>

①「修士課程における保健師教育～公衆衛生看護額を基盤に研究能力の向上を目指して～」

北海道大学大学院保健科学研究院 佐伯 和子 教授

②「保健師の基礎教育と現任教育の現状と課題」

名寄市立大学保健福祉学部看護学科 播本雅津子 教授

③「北海道看護協会が行う現任教育～実践力がUPする事例検討会の報告」

北海道看護協会保健師職能委員会 清水 光子 委員

④「保健師過程選択学生の実習を通して～現任教育と看護管理に組み込んで

上川総合振興局保健環境部保健行政部健康推進課

深津 恵美 課長

⑤「札幌市保健師の人材育成担当の立場から」

札幌市保健所健康企画課地域保健担当 石川 珠美 係長

<グループ別意見交換>

参加者自身がそれぞれの対場で保健師の基礎教育と現任教育に関わる中で、抱えている課題等について意見交換を行った。



平成25年に発出された改正「保健師活動指針」を受け、全国的に業務分担制から地区担当制への移行や地区担当制の充実など様々な取り組みが進められ、保健師活動の様相が変化してきております。また保健師の養成について大学院での養成開始や保健師養成施設である大学すべてで選択制となってきました。

今年度の研修は保健師基礎教育が大学の選択制と大学院それぞれにおいてどのように行われているか、その現状と課題について教育機関の立場から報告していただきました。

また、大学・大学院を卒業した保健師がどのような現任教育を受け、どのように育成されているのかを職場での実情も報告していただきました。

北海道大学では、大学院での修士課程における保健師教育を手厚いサポートのもと手掛けることが出来ているが、少人数しか地域に送り出せないという課題が、また選択制を取り入れている名寄市立大学では、免許だけ取りたい学生が多く保健師になる学生が以前より減ってしまった現状があることなどが報告されました。又、看護協会の保健師職能委員からは、現任教育として職能で力を入れているのは事例検討であり、困難事例や家族全体をとらえる力をつけ、個別支援を積み上げることで地域支援につながることから事例検討の研修を実施しています。現任教育の現場として、上川保健所と札幌市から学生実習の受け入れ状況や採用後の新人教育の現状や課題について報告がありました。

基礎教育と現任教育、そして学生実習の在り方も含めそれぞれの立場からの多くの課題が提示されました。

グループに分かれての意見交換では各関係団体の立場で、学生や新人保健師にどう対応しているか、保健師の魅力をどう伝え保健師の人材確保にどうつなげていくかなど活発な意見交換がなされました。

今後の現任教育がどうあるべきか基礎教育・現任教育とのつながりの中で共に考え、今後の各団体のそれぞれの活動につながりを持たせ、お互いに活かす機会となるような研修会となりました。



終了後のアンケートからも「大変参考になった」保健師教育の現状が良くわかった」「他の団体の活動を知ることが出来た」との感想が多く、「グループでの意見交換の時間が短かった」「今回のテーマを継続して深めてほしい」との意見が多かったことから、来年度以降も北海道における保健師関係団体の連携を深める研修等の活動を行っていきたいと思います。

(記：札幌市支部長 齊藤そのみ)